

學 界 の 寶

恩師タルボット先生

工學博士 阿部美樹志

千九百十一年の暮に私は初めてアメリカへ行つてイリノイ大學のタルボット先生の教をうける事にしました。日本に居る内にタルボット先生の論文を読みまして、混凝土工學に關して先生に對する相當の理解はありました其時私はまだ三十歳にならなかつたと思ひますが、其所で一年半程研究をして、其餘はヨーロッパへ行くつもりでありました。

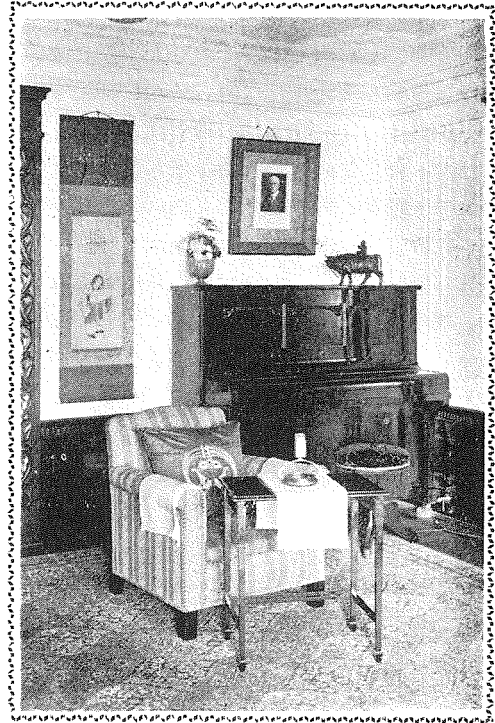
× × ×

恰度其時に日米交換教授の爲めに渡米された新渡戸稻造博士に私の希望を相談致しました處が、新渡戸さんがそれではイリノイ大學に私の友人が居るから聞合してあけるご云ふ事で、ゼームス教授にタルボットご云ふ人は何んな人であるかご聞いて下さつた。處がタルボット教授は此の

學校の寶物である

世界に比類のない大學者である。たゞ専門の學者としてのみでなく當世に得難い人格者であるこの事でした。それで私も愈々喜んでタルボット先生の研究室に入れて貰つたのであります。

タルボット先生が學校の寶であるご返も尊敬される理由は澤山にあります。當時イリノイ大學の工學科長であつた先生は、他の研究所や學校から當時先生の年俸の二倍乃至三倍の報酬で招聘したいご云ふ申込が度々ありましたが、先生はキマツテ申されました、私は此の學校で此れだけの研究機關を設備して貰つてをるから、自分には此所で研究して之を生徒に教える事が最大の樂みである。今後他から如何なる話があつても此所を動く考は毛頭ないから、決して取次いでくれるなご云ふ事を大學總長に申出られました。



Dr. M. Abe's private study room with Dr. A. N. Talbot portrait, whom Dr. Abe owes very much.

恩師タルボット博士の近影を掲げたる阿部美樹志博士邸の一室(自宅)

× × ×

私はイリノイ大學でタルボット先生に三年間教をうけました、然し此の三年間ご云ふもの私は大した

レクチャーを聴かない

のであります、タルボット先生の教へ方ご云ふものは講議をされるのでなく、論文を読みますのであります。今度は之を100頁讀んで來い、今度は之を150頁讀んで來いご云はれます、其中に凝問があれば之に對する參考論文の名を示されるのみです。其の參考論文に又も疑問があれば又それに對する參考書を示される。而して愈々參考書の種がつきご、今度は親しく机を突合して此の問題を斯う云ふ風に進めて見やうご云ふて其所で又レフェレンスだけ種々教えられる。

× × ×

世界的の工學の大學者であります自分の研究を少しも講義されない、失禮な様ですが初めの間は此人は知つてゐるのだから知らないのだから、分らない風でした。然し其所が先生のエライ點で、自分で知つてゐる事を口から出さない。

つまり學問を云ふものを口から耳へ通じないで、學生の自發的研究に待つ、而して疑問を生ぜさせる、其疑問の多少や程度が其學生の熱心さを表はすのでありますから、毎日一種の試験をうけてゐる様なものです。然し先生が此の知つて居る事を言はないと云ふ事は實に苦痛であらうと想像致す様になりました。

× × ×

斯の様に研究生をして少しも依頼心を生ぜしめない様に、自發的研究をさせる、之が

昨年の秋だつた

私は車中で読んでゐた某新聞紙の支那に關する通信から次の記事を見付けた(岡崎生)

× × × ×

今度の革命最中、河南の北軍が敗退の際、最後に引上げた一旅團が、黄河の鐵橋を渡り終つて、南軍の追撃を防ぐ爲めに、將に鐵橋を爆破せんとした。此時一人の外國人で突如線路に飛び出し、大手を擴げて其爆破を遮り「どうか破壊は止めて呉れ」と嘆願したものがあつた。

然し追撃を避くる唯一の手段として北軍は容易に承知しなかつた、狂氣の様になつた此外人は、線路に跪き、神に祈りを捧げつゝ斯う叫んだ。「諸君が是非爆破しやうとならば、乞ふ、先づ自分の命を取つてからにして呉れ、己れは此橋の番人だ。此橋は自分の生命であるから、自分の命より先に此橋の生命の絶たれるのを見るに忍びない」と涙を以て訴へた。

土匪にも等しい敗軍の將卒も、此一外國人の身命を投げ出しての決心と熱情とに動かされて、終にそのまゝ爆破を思ひ止まつて退却した、此外國人とは京漢鐵道がベルギー借款に由つて建設された當時、其技師長として渡された伊太利人モリナツト君で

タルボツト先生の教授法であります、而して疑問に疑問を重ねて遂に今迄の研究論文にない點迄も進めてやらせる、斯の如くして滿三年間私は先生の指導を受けましたが、師弟の情の厚い事も申す迄もありません。

× × ×

タルボツト先生は現在すでに七十歳餘の老齡で學校の方は止められたが、尙時々研究室には出掛けられます。先生が學生時代の成績は大學四年間の平均點數が98點と云ふのを見ても如何に優秀な人であるかが知れます、數年前にアメリカの土木、鑛山、機械、電氣等の諸學會が聯合して先生の名譽を表彰する爲めにワシントン、アワードと云ふ賞牌を贈りました、斯う云ふ聯合の表彰と云ふ事は實に稀な事でありまして、タルボツト先生が如何に知識徳望の高い人であるかを伺ふに足るものです。

あつた。一九〇六年、三十六歳で赴任した青年が、今日五十七歳の老人となつて尙黄河鐵橋を守つたのである。

× × × ×

當時(昨年三月)武漢は排外、打倒の中心地、勢ひ冲天の排外國熱の最中であつたが然も政府發行の機關紙はモリナツト君を極力稱揚した記事の結論として「斯云ふ外國人なぞ眞の支那の友人である」と最も大きな見出しで書き立てた。

外國人と云ふ字に特にコーテーションを付け、眞の友人だと當てつけた處は利己一點張の外人への皮肉であるが、同時に無差別の排外の共産黨政府への亦痛快な皮肉にもなつた。

要するに當時モリナツト君の一撃は、哀れなる一般外國人の爲めに萬丈の氣焰を吐いた大外交として、少からざる反響を與へた。

自分の作つた橋に對する愛着から一生を犠牲にして、橋番になり下つたと云ふ點にその情味以外に尊敬すべき心掛が認められるではないか。

コミツションさへとれば、儲けてさへ了へばそれでいゝと、跡は野となれ山となれ主義の人間が幾千人支那に入り込んでも結果は有害無益である。